

総長選挙結果のご報告

力及びませんでした。今回訴えた、1後継者のいない寺院への対応、2後継者の育成、3花園大

教団全体での対策の必要性を訴えました。今後も實相寺のみならず、全花園会員の不安を払拭するため、に尽力したいと考えています。

学の適正規模化、は今後教団が避けて通れない課題だと思っています。

特に1、2は当山にとっても重要課題ですが、もはや個々の寺院だけでは対応出来ないのでは、

記

令和七年三月二十四日に執行された宗務総長選挙の選挙会を三月二十六日に開催いたしました。開票の結果、左記の通り当選人が決定いたしましたので、ご報告いたします。

当選人 野口善敬

一、七〇五五票

山本文匡

五四九票

令和七年三月二十六日

宗務総長選挙 選挙長 堀尾行

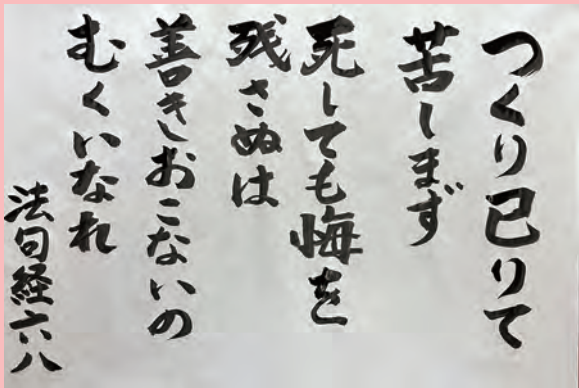


山本文匡 殿

實相寺花園会報

令和七年
四月一日発行
発行所
臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園会
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人
山本文匡
<https://www.jissouji.net>

第192号



お寺の掲示板

坐禅の意味は「調える」の一語につきる。

まず身を調えて健康を保ち、呼吸を調えて軽快に、そして心がよく調えられて、日々、是れ好日と、毎日感謝と法悦の生活ができるならば、人生何のいうことがあるう。これ以上の善もなく、これ以上の賢さもない。ブツダのことを調御丈夫と申し上げるのは、そのよく調えられたるみ心と、生活を讃嘆申し上げるのである。

『法句經 真理のことば』 山田無文老師 春秋社

「父母恩重經ふもおんじゆうきやうを読んで③」

「始め胎たいを受けしより十月とつきを経るの間、行住座臥ぎやうじゆうざふいともにもろもろの苦悩を受く。苦悩休やむ時なきが故に、常に好める飲食衣服おんじきいふくを得るも愛欲の念を生ぜず。ただ一心に安らかに産まんことを念う。」

もう三十年も前のことになりますが、これを読むと長男や次男を授かった時のことを思い出します。どちらの時も寺庭は切迫流産の恐れで、一週間程度入院しました。またつわりにも随分苦しめられたようでした。そんな中でお寺の仕事もこなしていた寺庭は、まさに歩く時も座る時もお腹の子を氣遣いながらだったに違いありません。

飲食物も胎児への影響を考えて我慢したり、真夏でもお腹を冷やさないような服装を心掛けたりしていました。本当にただ一心に我が子が健康に生まれてくることだけを願っていたように思います。

「月満ち、日足りて、生産しよっさんのときいたれば、業風ごうふう吹きてこれを促し、骨節ほふしことごとく痛み、汗膏あせあぶらともに流れて、その苦しみ耐えがたし。父も身心おの戦いくさき恐れて、母と子とを憂念ゆうねんし、諸親眷属しよしんけんぞくみな悉く苦悩す。」

やはり当時のことを思い出しますが、長男の出産には私も立ち会いました。寺庭が破水して入院したのがたまたま日曜で、法事後の食事中に連絡が入りました。檀

家さんに事情を話して駆けつけたことを憶えています。ところが病院に行ったもののなかなか陣痛の間隔が短くならず、生まれたのは翌日でした。その間、私も病室で付き添いましたが、それぞれの両親も固唾を呑んで見守ってくれていたことを思い出します。

「すでに生まれて、草上そうじやうに墜おつれば、父母の喜び限りなきこと、なお貧女ひんじよの如意珠にょいじゆを得たるがごとし。その子、声を発すれば母も初めて、この世に生まれいでたるが如し。」

そんな中、「オギャーオギャー」と我が子が元気な産声をあげた時の感動は、まさに素晴らしい宝物を得たような心持ちでした。『父母

恩重經』には「子供が産声をあげると、母親も初めてこの世に生まれてきたような気持ちになる」と説かれています。無事出産した直後の母親というのは、これ以上はない究極の安心感に包まれているのではないのでしょうか。ただひたすら我が子の誕生を喜び、自らの務めを果たしたことに安堵しているのではないかと思うのです。この時点での我が子は、そこに生きているだけで素晴らしい価値があるのです。ところがしばらくするとウチの子の方が立つのが早いとか、話すのが早いなど、ついでの子と比較してしまうのが人間の悪いクセです。(続)